

中学生と幼児親子に笑顔あふれて —児童館とのふれあい学習—

1. 「幼児とのふれあい」が必修に

新学習指導要領では、「幼児とのふれあい」が必修となります。京都市では平成 18 年度からいろいろな取り組みを考え、準備を進めてきました。昨年の近畿大会（全国大会）では各校の取り組み状況を調査し、ふれあいが可能な授業づくりを提案しました。授業展開の工夫をはかり、実践にむけてスタートしています。

2. 地域の児童館との新たな取り組み

従来の保育園や幼稚園との交流の取り組みを進め 中、地域の児童館との取り組みに目を向けました。

京都市の児童館は全市に 124 か所あり、地域の 0 歳から 18 歳までの子どもたちが利用できる施設で各種の催しを企画したり、地域の乳幼児が親子で参加できる幼児クラブがあります。また、学童保育という形で小学校の低学年 の子どもたちが、過ごす場でもあります。

今回は児童館の「幼児クラブ」に来られている幼児とお父さん、お母さんを交えて交流することで、親が子どもに対して、子どもが親に対してどのように接しているかを近くで見ることができ、親子のつながりを感じとれました。その中で、自分の成長に親や地域がどのようにかかわってきたか、自分はどのように育ってきたか、多くのことを学ぶきっかけとなりました。

プログラムは中学校と児童館で話し合い、今回は中学校に招く形で行いました。

3. 幼児と中学生のふれあい授業

歌や体操、手遊び、おもちゃづくり、紙芝居を読んで聞かせる、など 1 時間があつという間でした。親子でのふれあいですので、中学生より「子育ての喜びや苦労」などの質問コーナーも入れました。



* プログラム

1. おはようのごあいさつ（手をつなごう）
2. 児童館の紹介
3. 幼児親子の紹介
4. 中学生のあいさつ（代表）
5. 体操
6. グループになってふれあおう
 - (1) 楽器をつくろう
 - (2) 手作り楽器で合奏
(おもちゃのちやちやちや)
 - (3) フリータイム（一緒に遊ぼう）

7. 手遊び、読み聞かせ（紙芝居を中学生が読む）
8. 質問コーナー
 - (1) 子育てをして一番嬉しいときはどんなときですか。
 - (2) 子育てで大変なときはどんなときですか。
 - (3) 名前の由来は？
9. 月のお誕生日会
10. 中学生よりお礼のことば（代表）
11. 終わりのあいさつ（見送り）

*生徒の感想

- ・幼児とふれあう授業をして、とてもいい時間を過ごせたと思いました。やんちゃな赤ちゃんや泣いている赤ちゃん、眠そうな赤ちゃんもいて、自分もこういう時があったんだなと思いました。機会があれば児童館に行ってみようかなと思いました。
(男子)
- ・人見知りの子もいましたが、おもちゃを渡したとき、笑顔が見れてすごく嬉しかったです。やっぱり小さい子を見ていると、心が和むしおだやかな気持ちになれました。小学生の頃から小さい子が大好きでよく幼稚園の子と遊んでいましたが、中学生になってから、小さい子とかかわる機会がなくなってしまったので、すごくいい体験ができたと思います。幼稚園や保育園の先生になるのが夢ですが、夢に対して考える良い機会になりました。
(女子)



*児童館の方の感想

どきどき、わくわく緊張の中学生の皆さんとのふれあい授業は私たちにとっても、いい経験になりました。乳幼児のお父さん、お母さん、そして中学生の皆さんの笑顔をたくさん見ることが出来たことが何より嬉しかったです。元気いっぱいの中学生のパワーをたくさんもらいました。児童館にも遊びにきてください。楽しい時間ありがとうございました。

*お父さん・お母さんの感想

- ・とても楽しかったです。子どもも楽しそうにしていました。男子生徒が積極的に子どもとかかわろうとしていたのが印象的でした。
- ・思っていたより中学生の反応も良く、積極的にかまいでに来てくれ、とても楽しい時間を母子ともに過ごせました。また、機会があれば参加したいです。
- ・中学生がみんな素直でやさしいのに驚きました。子どもより親の方が中学生とふれあえて楽しかったです。

4. 地域の子どもとの交流

自分達の住む地域の児童館に来ている親子とのふれあいで、授業の時間だけにとどまらず、また「近くなので会える」、「児童館にいってみよう」ということも可能になり、本当の意味での地域の子どもたちとの交流の場になりました。

また、今回の取り組みは地域の若いお父さん、お母さんに中学生を知ってもらうこともできました。「中学生がこんなに素直で優しいのを知って、感激しました。」という感想をいただき、子どもとのふれあい学習が、地域とのふれあい学習に発展できたと感じました。ふれあい学習の一つに加えていきたいと思います。